

浜田市議会議長

原田 義則 様

議員名

岡 本 正 友



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成 26 年 4 月 4 日 (金) ～ 4 月 6 日 (日)

2. 視察又は訪問先

三重県 松阪市【宣長まつり】宣長の鈴～新しい一歩～

久保田市長、三浦次長 (教育部)、観光交流課

観光ボランティアガイドの会、佐野神楽社中

5 日 クラギ文化ホール (市民文化会館) 特産品販売応援と浜田市の PR、交流

6 日 市内、縁の歴史探訪と宣長まつり (松坂城跡) での市民交流

3. 調査経費 34,170 円

4. 視察に至った経緯と経過

浜田市と松阪市の交流は 3 年前 (2011) 秋、浜田市観光ボランティアガイドの会が古事記編纂 1300 年を迎えるにあたり、歴史探訪で三重県松阪市を訪ねた事によって、今まで誰も気付かなかった「縁」を見出した。その縁とは、初代浜田藩主の古田重治は国替えて伊勢の松坂 (三重県松阪市) より入封している。(1つ目の縁) また、12 代藩主の松平康定は国学を好み、伊勢神宮参拝の途中、松坂を訪ねて国学者の本居宣長に講義を受けている。宣長は自宅の書齋を鈴屋と名付けるほどの鈴のコレクターで、それを知った康定は隠岐に伝わる駅鈴のレプリカを作成し、和歌を添えて贈っている。(2つ目の縁) 宣長の影響もあって当時の浜田藩は国学が隆盛。儒臣の小篠敏は宣長を師と仰ぎ、20 人近い藩士らが門弟となった。その中には女性 3 人も名を連ねており、いかに当時の浜田藩に向学の気が漲っていたのかが分かる。現在も松阪市では JR 松阪駅前、巨大な駅鈴のモニュメントを設置してシンボリックな存在となっている。台座が腐食し駅鈴を撤去するとの方向であったが、現在の山中松阪市長が浜田との縁を深く知ることにより、2013 年春、補正予算数百万円をかけて石垣風の台座を新調されました。また、松阪市内には鈴やベルといったマンホールや造形物が数多く施してあり、市民に親しまれています。その縁や発見があり、交流が始まり、「古事記伝」を著した宣長のゆかりの地である。



松阪市から講師を招いて記念講演会（2012年6月）をした事で、浜田市民も初めて松阪市との深い縁を知ったところである。今年2月には、さらに親交を深め、新しい歴史を求めて松阪市では「友好の会」が設立されています。（斉藤ボランティアガイドの会長、牛尾博美議員、山崎ていじ観光大使が総会に参加）

行政同市の交流は、両ボランティアの交流もあり2012年10月、前浜田宇津市長が松阪市を表敬訪問され、また、山中松阪市長も2013年8月、浜田市を表敬訪問された。郷土芸能である石見神楽、古事記に書かれた神話（石見神楽は本居宣長が研究した古事記に出てくる神話を取り入れている。3つ目の縁）の演目を【宣長まつり】で上演して欲しいと要請されたことによって、2013年4月、この度の2014年4月、久保田浜田市長も松阪市を表敬訪問され「両市の友好都市協定」を結べる様に検討していくことや、石見神楽を通じてまず市民同士が交流し、文化・産業・観光で交流できるように、両市長の決意表明の場でもあった。

*佐野神楽社中はクラギ文化ホールで4演目（有明、三上山、恵比須、大蛇）
松阪城跡での舞台では2演目（塵輪、大蛇）を演じていただいた。



(松阪市駅前の駅鈴モニュメント)



(新調された石垣風の台座)



(石見神楽上演にみなさん興奮しています)



(両市長より浜田からは神楽面、松阪からは駅鈴贈呈)

所感

私はこのたび「宣長まつり」に浜田市のPR議員として、前任の三浦保法産業建設委員長、そして新任の布施賢司産業建設委員長の活動から、是非とも参加しなくてはと思い同僚議員の上野議員、串崎議員とともに4人で参加をしたところです。

「宣長まつり」の初日には、クラギ文化ホールに満席の1200人の市民が集まり大盛況でした。数年前より郷土芸能であり古事記に書かれた神話の物語、石見神楽が、また上演されると聞いてやってきましたと市民からの話を聞き大変喜んだところです。

エントランスホールでは、石見のガイドブックや温泉のパンフレットを、市の職員と議員団一緒になって、すべて一声かけて手渡してまわり、持参したアクアスのパンフレットは足りないぐらいに反響があったところです。また特産品販売なども完売することができ、パンフレット以上の情報発信もできたと思っています。

ホールでは、久保田市長、浜田市観光ボランティアガイドの会の浜田音頭披露もあり、そして山中市長が飛び入り参加された姿は、先人たちが繋いでくれた絆を手繰り寄せたいとの思いで、素直に喜んでいきます。

多くの方が、是非とも浜田市に訪問して本場で神楽観賞や石見の魅力を味わってみたいとの話に、嬉しく思ったところです。

今回の視察によって、先進地事例や行政施策を視察・調査することとは、違った意味で、先人たちの歴史や縁を訪ね、お互いの郷土芸能のPRや観光宣伝を行えたことは、市議会議員の活動として、新たな責務であり 将来の架け橋や絆を育むものであると思っています。これからも多くの松阪市民のみなさまと交流することは、市議会議員の一つの使命だと感じています。